

基礎データ（クロス集計等）

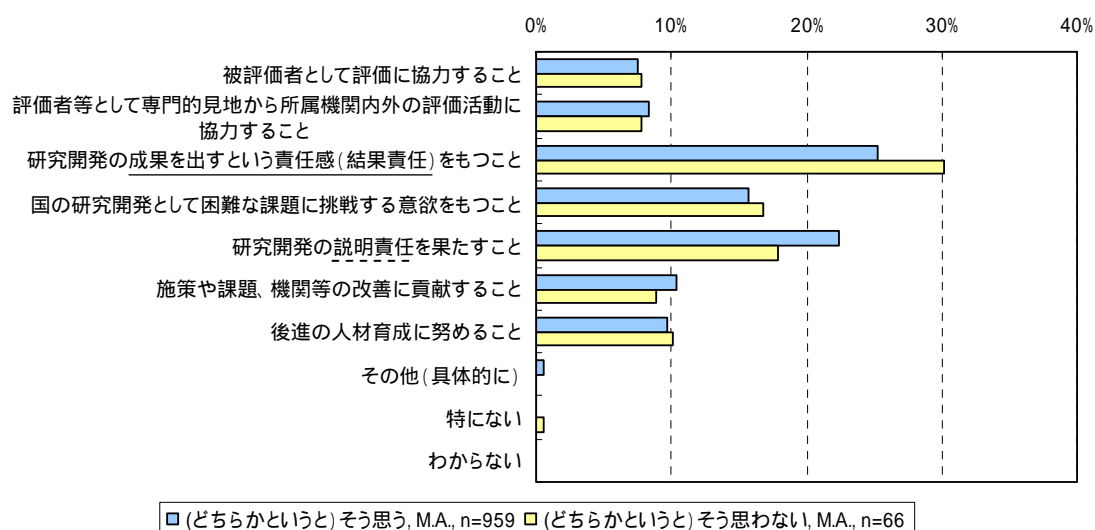
「作業負担が過重で困っている」に対する回答別の集計

- 対象：「評価のために必要な研究者等の作業負担が過重で困っている」(Q4B-14(府省版))
において「(どちらかというと)そう思う」および「(どちらかというと)そう
わない」と回答した研究者に分けて集計。
- 研究者(機関)および研究者(大学)の回答者数を合計。

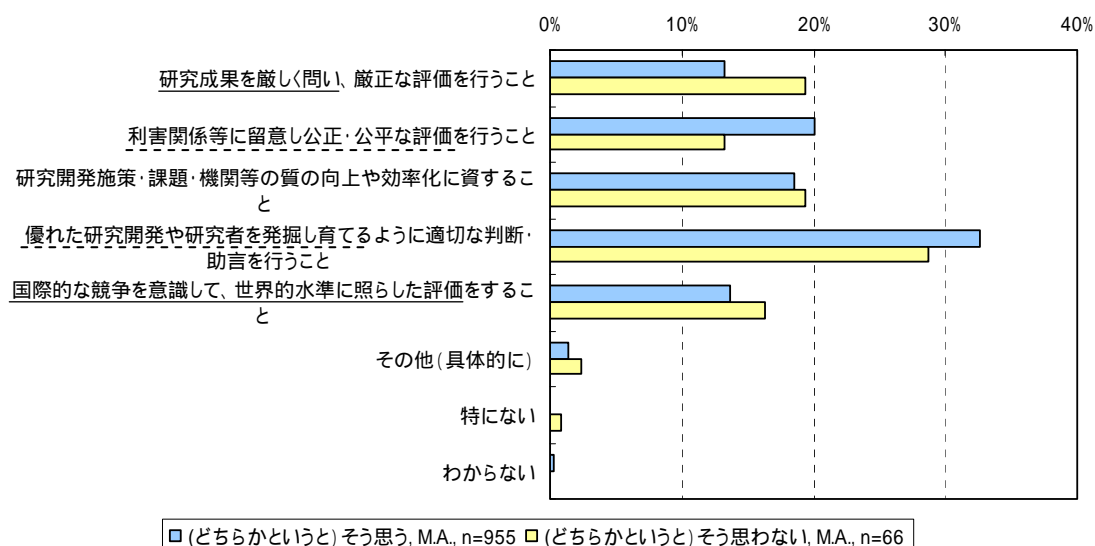
【研究者・評価者等の姿勢に関する設問】

QA2 評価に関連して、国費を使う研究者の心構えとして、重要と思うものはどれですか。

以下の選択肢から、お考えに近いものを3つまでお選びください。

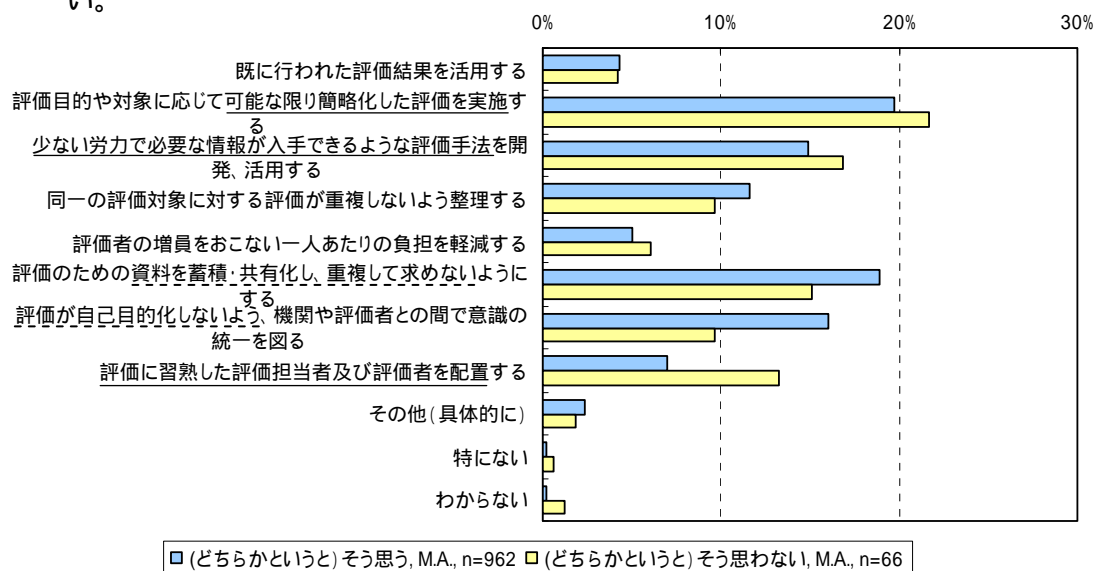


QA3 評価者の心構えとして、重要と思うものはどれですか。以下の選択肢から、お考えに近いものを2つまでお選びください。



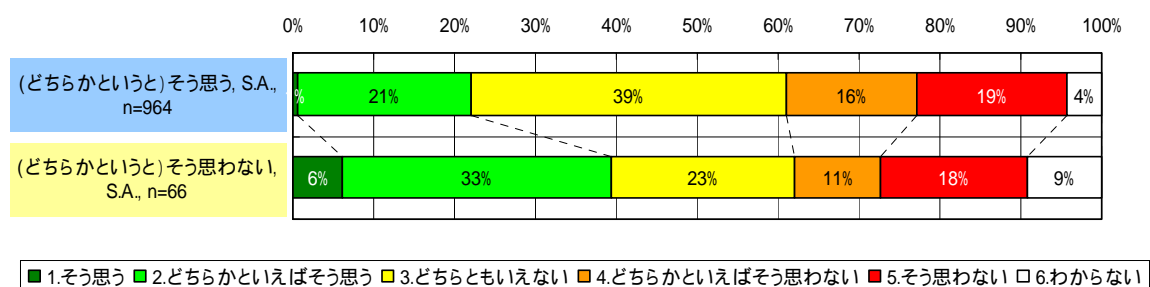
【評価に伴う過重な負担に関する設問】

QA5 評価に伴う研究者や評価者等の過重な作業負担を回避するために、どのような取組みが重要と思いますか。以下の選択肢から、お考えに近いものを3つまでお選びください。

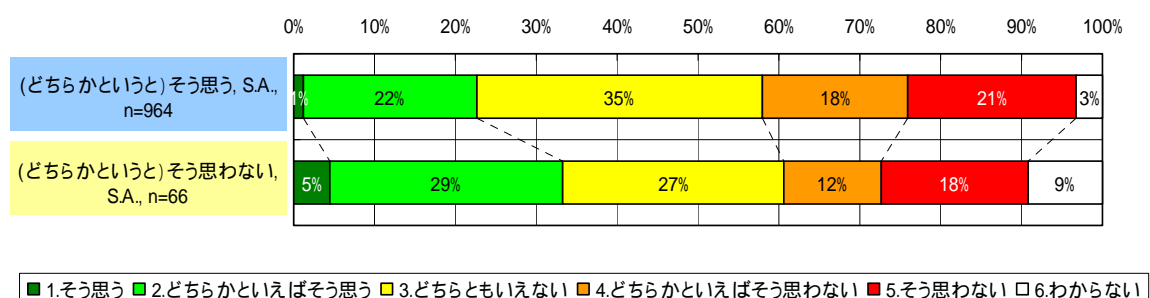


【大網的指針の下での評価への取組によって現れた影響】

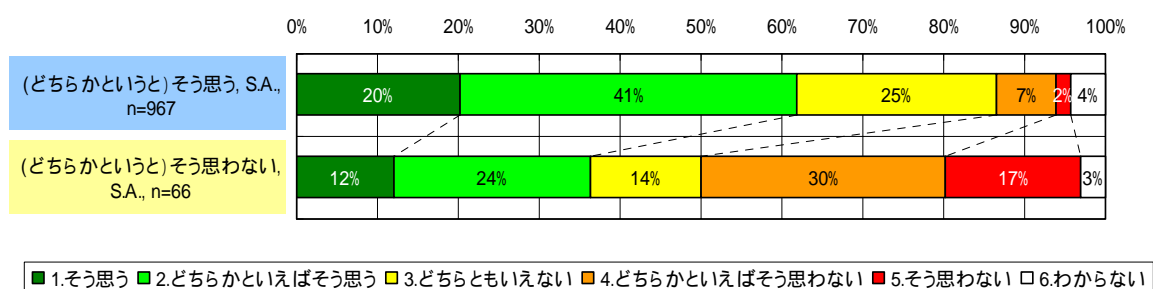
Q4A-1 優れた研究者の能力が発揮できるような柔軟かつ競争的で開かれた研究開発環境ができてきた。



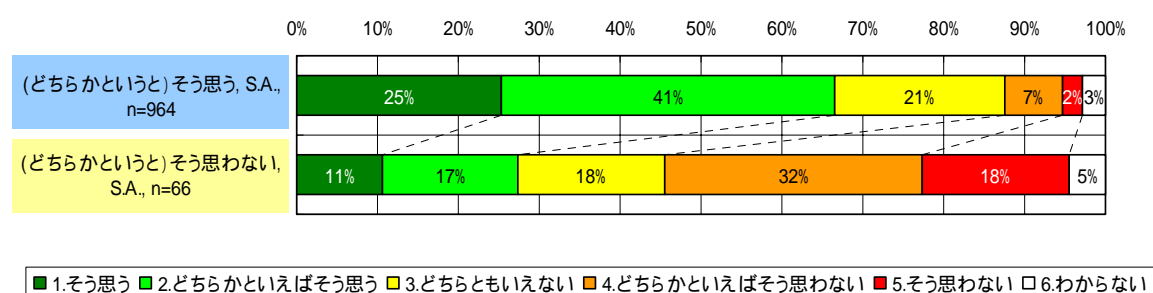
Q4A-6 研究者等を励まし、挑戦することを支援する研究開発環境ができてきた。



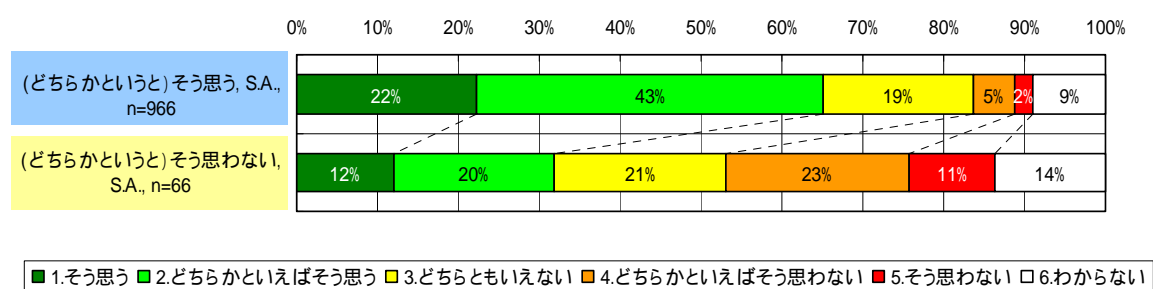
Q4B-1 評価が、その意義や目的に沿って機能せず、形式化している。



Q4B-2 評価が硬直的・高圧的に運用され、評価に振り回されている。



Q4B-5 評価の目的や観点に照らして、利用可能な適切な方法論（調査、分析、評価等）がなかったり、乏しかったりしている。

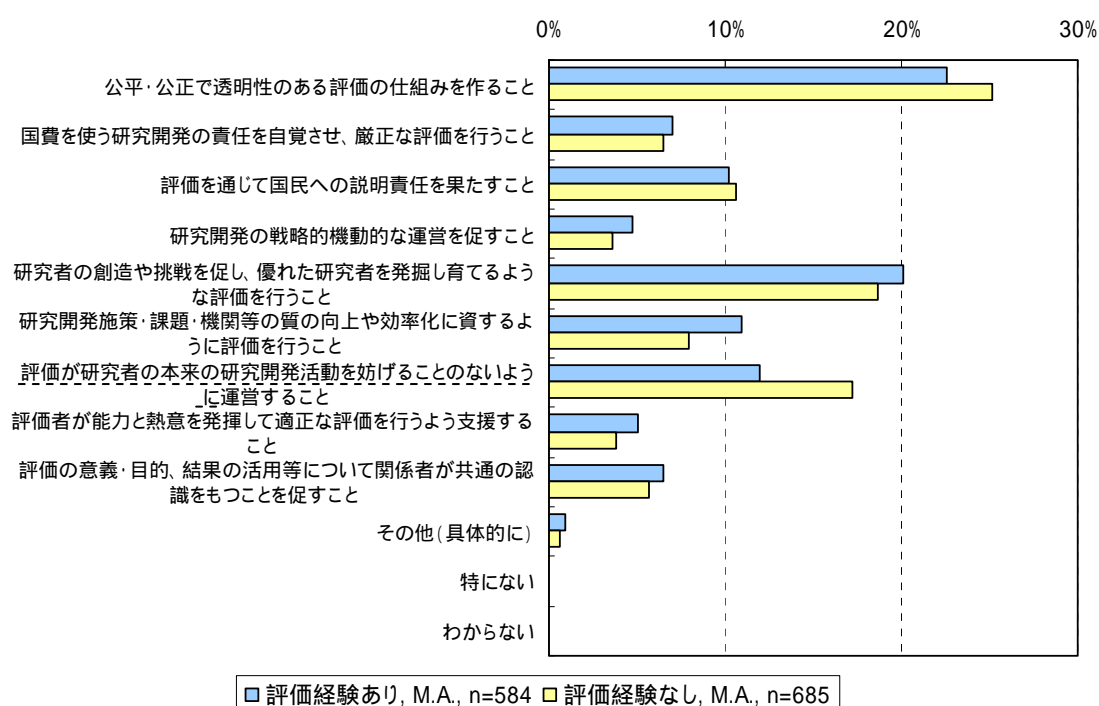


評価経験の有無に関する回答別集計

- ・対象：「評価者としての経験あり」および「評価者としての経験なし」と回答した研究者に分けて集計。
- ・研究者（機関）および研究者（大学）の回答者数を合計。

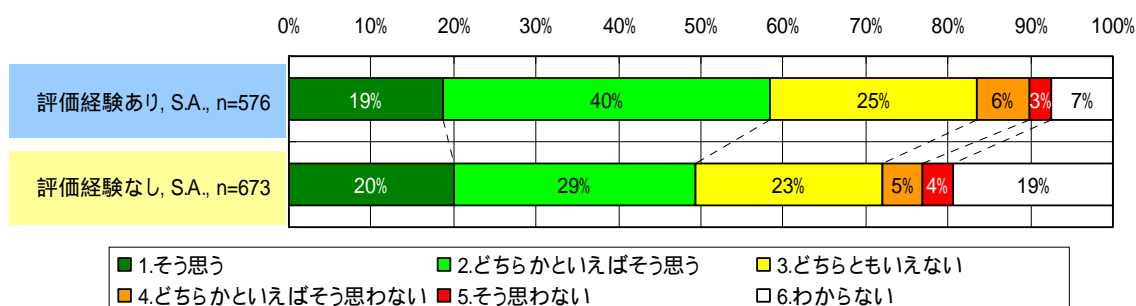
【研究者・評価者等の姿勢に関する設問】

QA4 評価を実施する当局として、最も心を配る必要があると思うものはどれですか。以下の選択肢から、お考えに近いものを3つまでお選びください。



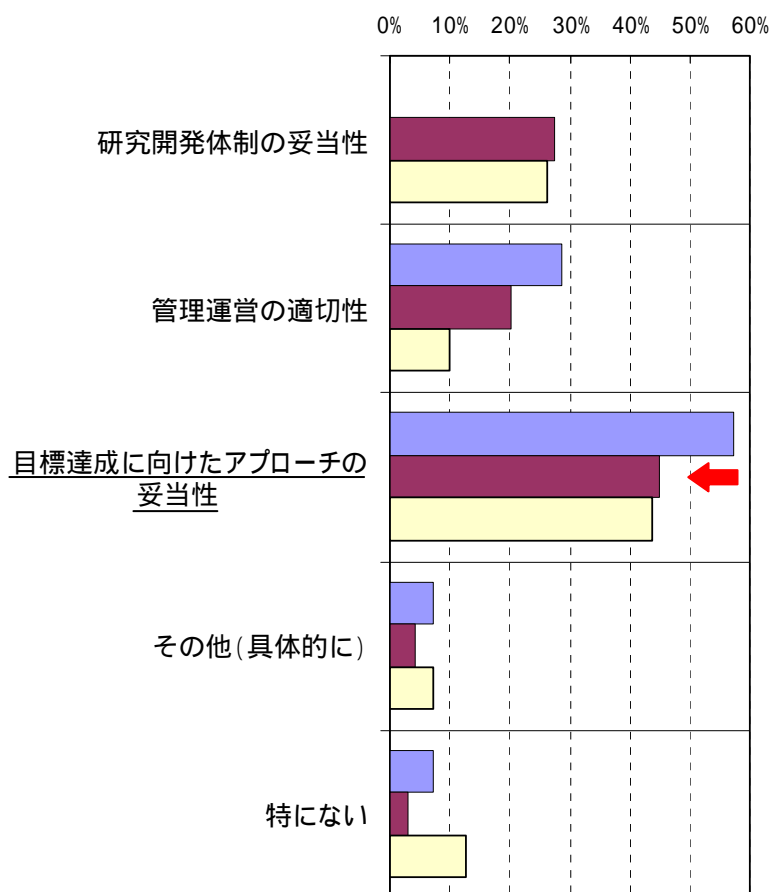
【大綱的指針の下での評価への取組によって現れた影響】

Q4B-11 評価結果が十分に活用されず、評価現場に徒労感が生まれている。



また、現行指針では、基礎研究については短期間に成果が現れないことから「画一的・短期的な観点から性急に成果を期待するような評価に陥ることのないよう留意」することとされているが、回答では「基礎的研究などで成果・効果の測定が困難な場合には「研究開発体制」、「管理運営」及び「目標達成に向けたアプローチの妥当性」に着目して評価しているとするものが多かった（QA15）。したがって、5月の結論に加え、「目標達成に向けたアプローチの妥当性」を記述することが適当である。

QA15 目標達成度や研究開発の成果・効果等が把握できない等の場合、どのような項目に着目した評価を行っていますか。以下の選択肢から、該当するものをすべてお選びください。



■ 府省, M.A., n=9 ■ 機関, M.A., n=35 □ 大学, M.A., n=96

現 行	5 月 版	今 回 修 正	改 訂 版